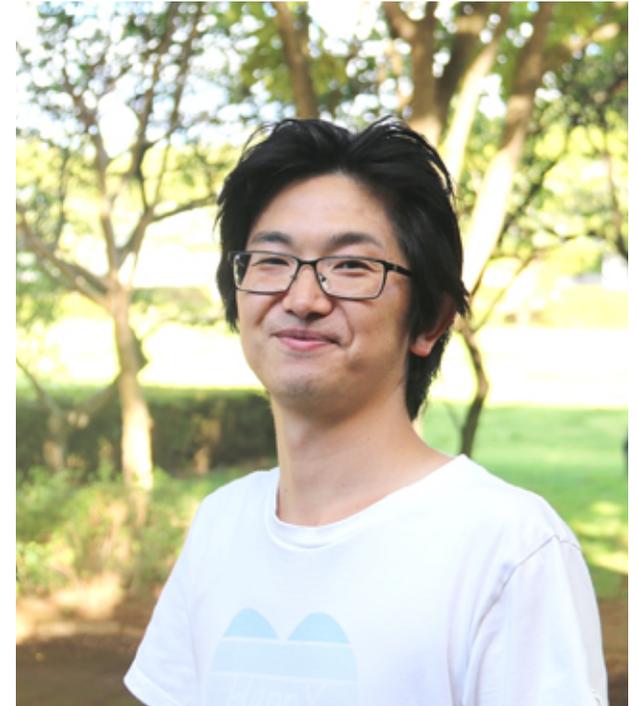


# みの〜れの不思議 答え探しの日々



四季文化館企画実行委員会／みのんぱ編集局

やす だ たか お  
**保田孝雄** さん

みの〜れと共に生活するスタイル  
**Minole Life**  
**のすすめ** No.191

厳しい暑さが続いていますね。みの〜れが生まれたときの美野里町では町の花はカンナでした。カンナは真夏の炎天下、大きな葉の間から鮮やかな赤や黄色、オレンジ色などの花を元気に咲かせて私たちの目を楽しませてくれます。今回は、四季文化館企画実行委員会委員とみのんぱ編集局員を務める、小美玉市張星にお住まいの保田孝雄さんを紹介します。

## 住民主体は 本当だった

みの〜れの近くで生まれ育ち、大学から上京し、そのま

ます。「みの〜れにはどうしてこんなに熱量が高くて面白い人がたくさん集まるのだろう」と不思議に感じ、今でもその答えを探している最中だそう。

生まれたマルシェ「まる市」。半年間の実証実験を終え、住民主体で動き出すきっかけになったのがみの〜れでした。小美玉さくらフェスティバルと「まる市」がコラボし、「アートなお仕事体験」を実施し大盛況。今後も「まる市」を住民主体で企画運営し「みの〜れの良きパートナー」として連携していきたい」と抱負を語りました。

ま都内に就職。「2人目の子どもができたのをきっかけに小美玉市に戻ってきました」と保田さん。Uターンを機に地元貢献したいと考え、茨城空港イベントや第1回国際ヨーグルトサミット、小美玉市のシティプロモーションにボランティア参加し、様々な方と面識ができました。昨年4月からは知人の勧めもあり、みの〜れの事業選定や運営を司る四季文化館企画実行委員会委員に就任。とはいえ、今まで全くみの〜れに関わったことが無かったという保田さん。みのんぱ編集局で市民記者としてたくさんの方に取材するうちに「毎日みの〜れのことを考えるようになりました」と語り

打ち合わせや相談事のために仲間同士で集まるのはいつもみの〜れ。いつでも集える開かれた場所です。定期的に足を運び対話を重ねることで、物事の見方も変わり、「これまででは点で見ていたことが、線、面で見えるようになってきました」と保田さん。

四季文化館企画実行委員会委員に就任し、「住民主体の運営は本当だと実感しました。内容も雰囲気もオープン。みの〜れは、市内外からさまざまな特技を持った人が集まり、創造性を発揮して自分の可能性を磨き、魅力を生み出しています」と語ってくれました。

地方創生の実証実験として

「アートなお仕事体験」を実施し大盛況。今後も「まる市」を住民主体で企画運営し「みの〜れの良きパートナー」として連携していきたい」と抱負を語りました。

みの〜れは、絵本スイミーのように、少人数ではできないことでも、多くの人たちと繋がることで大きななにかができる特別な場所だと日々のプロジェクトを見て実感。「長年継承されたみの〜れのノウハウを、自分の言葉として体系的に言語化できるように、今後もみの〜れに関わっていききたいです」と語ってくれました。

(藤田佐知子)